

〔外科〕

1. 研修内容

臨床研修終了後、他科で研鑽を積むうえに必要な外科学の基本的知識・技能、すなわち外科実地臨床に最小限必要な臨床能力を習得する。

(1) 外来診療のための研修

週一回の割合で、外来担当医のもとで短い診療時間に患者の訴えのなかから医学的に急を要する情報を抽出し、それに対する診断方法や治療などの臨床判断を瞬時に下すことが出来るよう訓練する。

(2) 入院診療のための研修

症状や病歴を聴取し、カルテに記載できる。

全身にわたる身体診察を系統的に実施し、記録できる。

患者の疾患に対して術前行うべき検査、診療、栄養管理の必要性を理解し、その対策を立てることができる。

全身検査の結果（血液、尿、心電図、胸腹X線、呼吸機能、腎機能、動脈血ガス分析など）をみて、術前必要とする準備を判断し、術後の合併症発生の危険度を予測できる。

患者の疾患に関する検査（消化管造影、内視鏡、CT、MRI、超音波、血管造影など）の所見を記載できる。

採血（静脈、動脈）が実施できる。

注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴用の血管確保）が実施できる。

術前の輸液、処置の必要性を理解し説明できる。

中心静脈栄養（IVH）の意義、手技が説明できる。（但し、基礎研修は3ヶ月間なので、実施はさせない。）

カンファレンスで症例の術式を検討する。

主治医と共に手術報告書、診断書、証明書、医療情報提供書を作成し、管理することができる。

主治医と共に退院時サマリーを作成し、管理することができる。

2. 一般目標

主治医チームの一員として外科診療に参加し、その流れを理解する。

3. 行動目標

患者や家族に対し研修医としての適切な接遇ができる。

清潔、不潔の概念を理解できる。

手術に必要な機器について説明ができる。

手術前に確実な手洗いができる。

術野の消毒を行い、ドレーピングができる。

手術の助手（第2または第3助手）として、術者が円滑に手術を行えるよう協力できる。

容易な部位において確実な結紮ができる。

開腹、開胸、閉腹、閉胸、術野の洗浄の意義、ドレーン留置の必要性を理解する。

術後使用する薬剤（抗生物質、止血剤など）について適正に指示ができる。

4. 研修目標

インフォームドコンセントの実際を理解する。

患者や家族に対する接遇の重要性を理解する。

さまざまな伝票類の管理運用を理解し、実施する。

外科としての基本的疾患の手術適応と術前術後管理を理解する。

基本的疾患の手術術式と局所解剖を理解する。

術後合併症の予防法と対処法を理解する。

主な外科的救急疾患の診断法と手術適応を理解する。

5. 研修実績

すべての入院患者に対して目を通し、状態を把握する。

週1回当直医につき、救急外来および夜間の病棟管理を学ぶ。

最低でも週に2~3症例は実際の手術に立会う。（手洗い）

外科系学会地方会（主に外科集談会など）に発表出来るよう努力する。

選択科目として外科を選択する者は最低一回の学会発表を行う。